



今月の話題

- 18人の研修生、2ヶ月間のグローバル地震観測コースを修了
- グローバル地震観測コース研修生代表挨拶
- 「Global Seismological Observation」プログラムの20年以上にわたる歴史について
- ネパール・カトマンズ盆地での微動探査

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

18人の研修生、2ヶ月間のグローバル地震観測コースを修了

国際地震工学センター 管理室長 飯竹理広、上席研究員 芝崎文一郎

平成29年1月17日に開始したグローバル地震観測コースの閉会式が、3月10日(金)、JICA筑波において開催されました。エジプト(2名)、ホンジュラス、インドネシア(2名)、イラン(2名)、マラウイ、ミャンマー(2名)、ネパール、パキスタン、パプアニューギニア、フィリピン、ソロモン諸島、スリランカ、タイ、ジンバブエからの18名の研修生が式典に参加しJICAとBRI/IISEEの修了書を授与しました。そしてジンバブエのイノセント氏が研修生代表として挨拶をしました。



グローバル地震観測研修コースは、核実験に対する検証体制の確立へ向けた日本政府の貢献策の一つとして実施されています。研修生は主に包括的核実験禁止条約(CTBT)の未署名国と未批准国から来ています。

研修を通じて研修生は、CTBT体制および国際監視制度(IMS)における地震学の役割についての知識を習得します。その他、核実験と地震を監視するためのグローバル地震観測技術および核実験と自然地震を識別するデータ分析技術について学びます。また研修プログラムの最後に、帰国後に実施するためのアクションプランを作成します。

アクションプランの発表会では、研修生が本研修で習った内容の研修を自国で開催する計画を提案しました。研修生には、日本で学んだ知識を同僚にも紹介して頂けると嬉しいです。

さらに、グローバル地震観測やデータ解析に関する専門知識や技術は、各国において地震災害の軽減に役立ちます。この研修の実施に当たりまして、包括的核実験禁止条約機関(CTBTO)、外務省(MOFA)、国際協力機構(JICA)、気



地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



象庁(JMA)、関係の皆様大変お世話になりました。本コースへのご支援とご協力に深く感謝申し上げます。



グローバル地震観測コース研修生代表挨拶

Mr. Innocent Gibbon Tirivanhu Masukwedza (ジンバブエ)

建築研究所 坂本雄三 理事長
JICA 筑波 永友紀章 次長
国際地震工学センター 横井俊明
センター長
ご列席の皆様 そして仲間の研修生の皆様、

本日、2016年度グローバル地震観測コースを修了した研修生代表として、この場で挨拶を述べることが光栄に思います。何よりも、この研修を成功に導くため多大なるご尽力を頂きました日本政府、外務省、JICA、建築研究所そして国際地震工学センターの皆様へ心から感謝の気持ちを申し上げます。

私たちはこの素晴らしい国、日本に2ヶ月間滞在し、本研修の目的である「核爆発と自然地震の識別技術の習得」を達成できたと確信しています。これは、熱心な先生方が時間をかけて説明してくれた有益な講義のおかげで可能となりました。

また、簡単な日本語も話せるようになりましたし、文化遺産への訪問を通じ、日本文化を学ぶことができました。

諸先生方に直接感謝の言葉を伝えられませんが、この場でお礼を申し上げます。私たちのために忍耐強くご指導いただき有難うございました。

閉講式を迎えましたが、ここで培われた友好関係が今後も続くことを期待します。



Mr. Innocent Gibbon Tirivanhu
Masukwedza (ジンバブエ)



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願いします。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

それぞれの国でこの研修の目的を実現するために、様々な方法で貢献しましょう。

よいことにはすべて終わりがあり、残念ながらさよならを言う時間がやってきました。明日それぞれの国に帰ります。皆が家族、友人、最愛の人、ペットとの再会を楽しみにしている反面、この2ヶ月間「ホーム」としていた JICA 筑波センター、建築研究所の教室、いつも一緒だった佐久間さんと稲留さん、美しい日本そして皆さんとお別れを寂しく感じています。

この研修を成功に導いてくださった全ての機関に重ねて感謝いたします。私たちは皆さんの多大なご恩を生涯忘れません。どうもありがとうございました。



「Global Seismological Observation」プログラムの 20 年以上にわたる歴史について

国際地震工学センター長 横井 俊明

2017 年 3 月 10 日、IISEE は、22 回目のプログラム「Global Seismological Observation」の閉講式を行いました。

この2ヶ月間のプログラムは、1995 年から毎年開催され、核実験探知技術と共に、特に遠地地震のための地震観測技術の普及に貢献してきました。IISEE では、IISEE Bulletin の「Global Seismological Observation」の特別コーナーを設置しました。祝辞、回想、近況、あなたの国での遠地地震観測に関する情報、核兵器廃絶への期待など、投稿を御待ちしています。正式な論文に加えて、上記のコースの参加者からのショートメッセージを歓迎します。IISEE 同窓生の世界的な人的ネットワークへの参加を強化することを御考慮ください。

ネパール・カトマンズ盆地での微動探査

国際地震工学センター 主任研究員 林田拓己

2 月 11 日～18 日の 8 日間、横井センター長と SATREPS プロジェクトの調査研究の一環でネパール・カトマンズを訪問しました(横井センター長は 2 月 21 日まで滞在)。SATREPS は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)と独立行政法人国際協力機構(JICA)

バックナンバーは
下記をご覧下さい。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

が共同で実施している開発途上国を対象とした国際研究プロジェクトです。ネパールを対象とした課題「ネパールヒマラヤ巨大地震とその災害軽減の総合研究(研究代表者:東京大学地震研究所瀧澤一教授)」では、カトマンズ盆地におけるハザード評価や地震動予測をはじめとした、地震防災のための共同研究を実施しています(平成32年度まで実施予定)。我々にとって本プロジェクトの調査目的でのネパール訪問は、昨年12月に引き続き2回目になります。



微動測定の様子

滞在中は、広帯域地震計を用いた深部地盤構造解明のための微動アレイ探査を、カトマンズ盆地内の複数の地区で実施しました。本探査は元研修生のMukunda Bhattarai氏(ネパール鉱山地質局:2004-2005、2013-2014 地震学コース)が主に担当しており、観測のための用地交渉、手配やスケジュールの調整、機材の設定など、大変精力的に取り組んでくれました。Mukundaさんの尽力の甲斐があって、大きな問題もなく予定通り観測を行うことができました。また、滞在中には多くの元研修生が我々を暖かく出迎えてくれました。今後も定期的に調査を行う予定ですので、また、皆さんと現地でお会いできることを楽しみにしています。



元研修生との昼食の様子



2015年の地震被害を伝える壁画